

音読指導一覧表

個人音読

	種類	方法	ねらい・特徴
1	回数読み	何回読むかを指示する。たとえば起立して2回、座って1～2回というように座ってからも読むように指示する。	単調になりがちな音読練習に、明確な目標を持つことでやる気を促す。
2	方向転換読み	全員起立して、方向転換しながら（南北東西）それぞれ1～2回読み、座ってからも2回読むように指示する。	1回ごとに方向が変わると、自分の速さを周りの生徒と比べられるので、集中度が増す。
3	10個読み	教科書に を10個書き、1回読む毎に色を塗っていく。	ある程度読んだ後にこの指示を入れる。
4	ペースリーディング	モデルの速さを事前に計っておき、その時間となるべく同じ時間になるように読む練習。読み終わるタイミングが、教師の合図に近いほどよい。	全員起立させ一斉スタートする。あまりに速く音読することによるイントネーション等の乱れを防ぐ。
5	一息読み	はじめに大きな息を吸って、息継ぎなし、または一回の息継ぎでどこまで読めるか競う。	スラスラ読めないとできないので、難易度は高い。しかし意欲づけになり、練習回数も自然に増える。
6	制限時間読み	（たとえば）1分の制限時間を与えて、できるだけたくさんの回数を読む。2回目は制限時間を短くしてやる気を促す。	2回目は、1回目と同じ制限時間でどれだけ回数が増えたかを試してもよい。
7	物置読み	鉛筆や消しゴムを1個、本文の上に置き文字を隠して音読していく。2回目は置く物の数を増やしていく。	縦横斜め等置き方によって難易度が変わる。ペア活動として、隠した英文を相手に読ませても楽しい。
8	Reproductive Reading	単語をいくつかブランクにしたワークシートを渡して、穴埋めしながら音読する。	単語 句 文と、スモールステップで練習できるようにワークシートを工夫する。

【スピーキングにつながる音読指導】

Keyword Reading	音読する文のキーワードだけメモ（板書）し、それを手がかりに教科書を閉じてチャンクまたは文全体が言えるようにする。意味を考えながら言うことが大切で、元のテキストと一言一句同じである必要はなく改めて表現し直す「再構成」である。事前に文の構造と意味をしっかりと理解させ、Read& Look upなどの予備練習を十分に行うことが必要である。 【手順】 教師によるモデル提示 一斉練習 個人練習 個人発表
Picture Chart Reading	キーワードの代わりに関連するチャートやピクチャーカードを提示し、それをもとに文全体を言う。
Help Recitation	一人に暗唱で言わせる時に、ペアの片方は横についてヘルプする。暗唱に詰まったときにヒントを与える。
Recitation	本文を暗唱する（キーワードリストやピクチャーカードを利用してもよい）。